

春日部がもっと好きになる、まちの情報誌

kasukabe

Plus
かすかべプラス

2013-14 FALL/WINTER

音楽が生まれ、
満たされるまち。

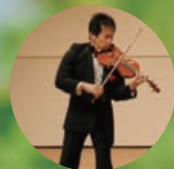
ジャズデイかすかべ
熱い思いが
まちを変える!



春日部に響く
市民楽団



第4回
かすかべ音楽祭、
開催します!



マーチングで輝く 春日部市の中学生たち

で輝く 中学生たち



配の方までさまざまなジャンルの音楽を楽しんでいる。
年はマーチングバンド・カラーガード全国大会で、
遂げた。両校のルーツと今を追っていく。

毎日、全力投球！
私たち、マーチングバンドの強豪校なんです
豊野中学校吹奏楽部



今から20年以上前、 音楽で学校が変わった

「もう一度やって。もう一度！」
「はいっ！」

8月のお盆休みのある日、ウイング・ハット春日部のメインアリーナでは、あちこちで元気な声が響いていた。豊野中学校吹奏楽部が、翌週に控えた埼玉県マーチングコンテストに向け、本番と同じ会場を借り切つて、最終の仕上げに向けた練習をしていた。気温は35度。生徒たちの額からは汗が流れ落ちる。ぬぐう間も惜しんで一心に取り組んでいた。



アリーナの片隅では大人たちが集まって、コンテストで使う旗や小道具を作っている。「頑張っている子どもたちや先生を少しでも手伝いたくて」とサポートに駆けつけた保護者の方々だ。生徒、指導者、卒業生、保護者。そこには、全員が丸となつてコンテストでの勝利を目指している姿があった。後述する春日部中学校も同様だが、保護者を巻き込んだのチームワークのよさは両校の伝統だ。そんな両校のこれまでの歩みを教えてくれたのは北川房男さん。春

日部市を拠点とする楽器店で、長年、地域の学校音楽教育の現場をサポートしてきた。

「豊野中と春日部中でマーチングが始まり、市内に根づいたのは、かつての顧問、木村信之先生の存在が大きかったですね。木村先生は音楽で学校を変えようと力を尽くしていました」

日本がバブル崩壊に差しかかる今から20年以上前、揺れていたのは大人たちの世界だけではない。教育の現場でも混乱が起きていたという。

北川さんは当時を「生徒たちはどこに気持ちをつけていいかわからなかったのしょう。校舎の窓ガラスを割ったりする生徒も少なからずいましたね」と振り返った。

そんな時代、20代だった木村先生は、新任音楽教師として豊野中学校に赴任。大音量で音楽を聴く生徒には「音楽が好きならギターを弾いてみないか」と声をかけ、クラスで目立つ子には「合唱で指揮をやってくれ。このクラスをまとめられるのはお前しかない」と指揮棒を握らせたという。木村先生は、音楽を通じて生徒たちの心を少しずつ開いていった。

マーチング 春日部の

春日部は音楽が日常に溶け込んでいるまち。子どもから年
特に中学校の吹奏楽やマーチングは盛んで、2012
市内の2校が金賞受賞という快挙を成し





「全員がレギュラー」 それがマーチングの魅力

現在、久喜市教育委員会指導主事を務める木村先生は、当時を振り返ってこう語る。

「悪い子なんていなかった。中学生は自分を認めてもらいたいと思う年頃。だけど、どう表現すればいいかわからないから、自分流にいろんな方法で自己表現していただけ。だから、



も力を入れ、新しい取り組みを始めた。当時、埼玉県でも数校でしか行われていなかったマーチングを吹奏楽部に取り入れたのだ。

吹奏楽コンクールでは、編成によって人数が決まっているため、大会に出られない子が出てくる。しかし、マーチングは人数の制限がなく、全員が確実に参加できる。まさに「全員がレギュラー」という大きなメリットがある、と考えたからだった。

マーチングは、音作りだけでなく、動きも加わるため、相当な練習量が必要となり、休みはほぼなくなる。そのため、木村先生は保護者に対し、部活説明会を何度も開き、理解と協力を求めている。地域との連携にも力を入れ、演奏の依頼があれば、できるかぎり参加。保護者や地域の人たちを味方に、豊野中学校の吹奏楽部はみるみるうちに力をつけ、西関東大会で金賞を獲得するまでになった。



音楽で自分を表現する方法を教えなかった。音楽という決まりの中で自分をどこまで表現できるか。それを知り、人に聴いてもらい喜んでもらえれば、自己有用感（自分がどれだけ大切な存在か認識すること）が満たされ、自信もつきます」

木村先生の元には当時の教え子から「音楽を通じて自信や可能性を見つけることができた。今の自分があるのは中学時代のおかげ」といった内容の手紙が寄せられるという。

木村先生は豊野中学校で、部活に



みんなが一つになったとき 自然と結果はついてきた

4年前に同校に赴任した現顧問の松本千恵子先生。そもそものは木村先生が指導する春日部中学校のマーチングを見て、「マーチングをやっている子はいかとうをつけてまっすぐ立てる。中学生でもきれいに立てるんだ」と感動し、他校でマーチングの指導を始めたという。その魅力について松本先生はこう続けた。



「マーチングは座奏より難しく、初めは音も動きもぎくしゃくしてなかなかうまくいきません。でも、練習を重ねていると、あるとき、急にできるようになる。点と点がつながるような、その瞬間、毎日が感動の連続です。マーチングはみんなで作れるところもいい。生徒、先輩、先生、保護者の方々、そして地域の皆さんのサポート。全部が一体となって初め

てうまくいく。こんな体験はなかなかできないと思います」

昨年は、松本先生が大会前に1カ月間入院するというアクシデントが起こった。先生の不在中、練習の緊張感はなくなり、大会出場も危ぶまれたという。部長の角谷愛友さんが、その当時のことを話してくれた。「このままじゃダメだね」って当時の3年生を中心にみんなで話し合いをしました。誰からともなく、松本先生を絶対に全国大会に連れて行こうって声が出て、それからみんなの雰囲気も変わって、必死に練習するようになったんです」

松本先生の不在を知り、学内外の先生方や、先輩たちも指導にかけつけてくれた。そして見事、全国大会金賞受賞。みんなの気持ちが一つになり、自然と結果はついてきた。

豊野中学校吹奏楽部、現在の部員は46名。全国大会に向けた彼らの挑戦はこれからも続く。

北川房男さん
(昭和楽器専務取締役)

両校の吹奏楽の歴史について話を聞いた。「ジャズデイかすかべ」の主要メンバーの一人でもある。春日部のあらゆる世代の音楽文化をサポートしている。



※「吹奏楽」とは……木管楽器、金管楽器、打楽器を基本に、十数名から100名程度の編成で演奏される音楽の形態。ストリングベースやピアノなどが加わることもある。



保護者手作りの小道具・大道具とともに。



西関東大会進出を決めた瞬間。



いざ本番へ

木村信之さん(久喜市教育委員会)

一般企業を経て中学校の音楽教員に。春日部市立豊野中学校、春日部中学校、久喜市立久喜東中学校を経て、現職。

木村先生に聞く

音楽を通して「努力」「我慢」「工夫」を教えたかった

生徒たちに何か影響を与えることができていたとしたら、すごいのは私ではなく音楽の力。元々音楽を嫌いな子はいない。いるとすれば、音楽の授業中、一人で歌わされたりして、「授業が嫌い」になっている子。そういう子には音楽が好きになる授業をすればいい。みんなで歌ったり、褒めてあげると好きになります。

合唱や演奏、演技を通して子どもたちに培ってほしかったのは、目標を達成することで得られる自信。それから、目標達成のために「努力すること、自分の我を捨て「我慢すること、みんなで一つのことを成し遂げるために「工夫すること」の三つです。子どもたちはみんな人から認めてもらいたいという気持ちが強い。音楽は自分の思いを自由に表現できる。音楽による自己表現で、他人から認められると子どもたちはいきいきとしてくるんです。音楽の力は偉大です。



学校がまとまっていたとき 誰もが**音楽の力**をあらためて感じた。

卒業生に聞く

豊野中学校で得た出会い
それが私の人生を変えた

15年以上前、豊野中学校では先輩が厳しい選抜を通過してくれたおかげで、ディズニールランドで演奏する機会がありました。私は「入部したらディズニールランドに行ける」という誘い文句につられて吹奏楽部に入ったんです(笑)。もともと親が音楽を教えていた関係で、自然と音楽をやるようになりましたが、豊野中学校で吹奏楽部に入部したときも、将来音楽家になるなんて考えていませんでした。

それが変わったのは、そこで得た出会い。そして音楽へ向き合う姿勢を教えていただいたからだと思います。我慢しながら一つのものを作り上げる厳しさ、その奥にある達成感を体験すること、何事も誠実に真正面から向き合うことを学びました。その経験は今の活動にも役立っています。

合うこと
を学びまし
た。その経験
は今の活動
にも役立って
います。



川畑麻衣子さん
(クラリネット奏者)

豊野中学校卒業。音大卒業後渡仏。帰国後は音楽家として活動、高校の非常勤講師等も務める。



春日部市立豊野中学校

昭和52年開校。学校教育目標は「夢創造」。

部訓「音も心も上を向こう」を胸に活動している。

●部員数：46名(3年生19名、2年生12名、1年生15名)

●顧問：松本千恵子、一條亜津子、田口裕美

●次回定期演奏会予定：2014年3月23日(日)





地域の皆さんとともに！
私たち、マーチングバンドの**金賞校**です
春日部中学校吹奏楽部チャレンジャーズ



藤まつりパレードで知った
地域の人に披露する喜び

春日部中学校吹奏楽部チャレンジャーズは、マーチングコンテストで上位争いの常連校。今年も全国大会出場を目指し、夏休み返上で練習に励む。

3年生の岡安絢子部長は、「みんなでステージに立ったときの達成感は何ものにも代えがたい。だから、毎日の練習も乗り越えられる。マーチングって本当に楽しい」と笑う。

春日部中学校の吹奏楽部でマーチングが始まったのは、木村信之先生が赴任した15年前。吹奏楽部の部室をのぞきに行った木村先生が目にしたのは、雑誌を片手にスナック菓子をおぼる生徒たちの姿だった。

生徒たちを変えるきっかけとなったのが、藤まつりパレードへの参加だった。量販店で買った揃いのTシャツを身につけ、パレードの先頭を飾った。通りを埋め尽くす観客からは拍手の嵐。生徒たちは、練習の成果を披露できる喜びを全身で受け止めた。以来、部員全員がマーチングに夢中になっていった。

当初36名だった部員は年を追うごとに増え、木村先生が他校へ異動となる8年後には136名にまで膨れ上がった。毎年、コンクールで好成績を重ね、2002年には「マーチングバンド世界大会ジュニア部門1位」の快挙を成し遂げたのだった。



全国大会への遠征費を 地域の人がバザーで捻出

だが、木村先生が重視したのは、コンクールでの勝利ではなかった。

「コンクールも大切。だけど、生徒には『いちばん大事なのは、年に一度の定期演奏会。コンクールは自分たちのためにやる演奏。定期演奏会は聴きに來てくれる地域の皆さん、学校の仲間たちのための演奏。誰かのために努力することこそ大事にしてほしい』と言いつ聞かせていました」

たびたび木村先生の口をついて出る「地域」という言葉。なぜ、そこまで地域にこだわるのだろうか。

「中学校は『市立』でもあるが、『地域立』。つまり地域のもの。『地域が誇れる学校であつてほしい』『学校を応援したい』という地域の方々の気持ちを常に感じていました」

チャレンジャーズ初の全国大会（吹奏楽連盟主催）出場の会場は神戸だった。部員80名を連れていくだけで数百万円かかる。困り果てている彼らを見た当時のPTA会長は、地域の方と一緒にバザーを開き、遠征費を捻出してくれた。地域と春日部中学校との結びつきは今も続いている。



定演を満席にしてくれる
地域の人たちにいつも感謝

チャレンジャーズの現顧問、山崎里美先生は、「地域に愛される部活でなければならぬ」と思っています」と言う。

「いつも、『凡事徹底(当たり前のことを当たり前にする)』を厳しく指導しています。これが身につけば、地域の人が応援してくれるようになるだけでなく、何よりも、社会で役立つ人に成長できるのです」

演奏や演技ができるだけでなく、地域に愛される礼儀正しい人であること。チャレンジャーズにはそうした伝統も引き継がれている。

毎年3月になると、豊野中学校、春日部中学校はそれぞれ定期演奏会を開く。地域の人たちでいっぱいになった演奏会では、クラシックに加え、童謡やアニメソングなどが披露される。吹奏楽部で過ごした3年間を振り返り、万感の思いを込めて演奏する卒業生の姿は、感動そのものである。

これからも、両中学校の吹奏楽部は、音楽と出会えた喜びや感動を地域の人と分かち合い続けていくだろう。



大道具製作のために、休日返上で駆けつけた保護者や地域の方々。大道具は本番では欠かせない演出の一つ。



春日部市立春日部中学校

昭和22年開校。学校教育目標は「可能性に生きる」。吹奏楽部は「当たり前のことを当たり前」をモットーに活動している。

●部員数：69名(3年生20名、2年生24名、1年生25名)

●顧問：山崎里美、梶原和子、山下珠枝

●次回定期演奏会予定：2014年3月22日(土)





豊春中学校混声合唱団の練習風景。透き通るような美しい歌声が音楽室いっぱいに広がる。

学校から街中に 広がるハーモニー

春日部市内には、音楽で活躍する学校がたくさん! その中の3校を紹介します。

豊春中学校混声合唱団

「合唱といえば豊春」地域に響き渡る、全国レベルの声

春日部市内は小中学校の合唱活動が盛ん。各校の代表が集まる小中学校音楽祭や市内全中学校では合唱祭が毎年開催されている。また、市内には合唱人口も多く、市民が多数参加する「春日部市民合唱祭」は毎年盛況だ。

市内中学校の中でも特に多くの実績を上げているのが、豊春中学校混声合唱団。全日本合唱コンクールにおいては全国大会へ出場を重ね、2012年には銀賞を獲得するなど、全国レベルの強豪校だ。

また一方で、「地域の方に歌声を聴いてもらいたい」と、敬老会など地域での活動も大切にしている。顧問の母壁菜穂子先生は、「歌は自分^{はかべ}が楽器。体調や感情はすべて声に表れるから、それをコントロールできる力が必要。歌を通して、人として成長してほしい」と、厳しい練習の先にある想いを生徒に伝え続けている。



粕壁小学校 金管バンドクラブ

藤まつりパレードなど 校内行事以外でも幅広く活躍



1872(明治5)年の開校から今年で142周年。『子ども達が誇りに思える学校』を目指して、児童全員が学習、運動、友達作りに全力で取り組んでいるのが粕壁小学校だ。

金管バンドクラブに所属しているのは4年生から6年生までの55名。音楽が大好きな仲間たちが、クラブの時間や休み時間を中心に、毎日一生懸命練習に励んでいる。

運動会などの校内行事での演奏に加えて、「藤まつりパレード」「非行防止キャンペーン」「人権の集い」「春日部博覧会〜スクールコンサート」など地域の催しにも積極的に参加。地域の人たちにも愛されているクラブである。

春日部共栄高等学校 吹奏楽部

ニューヨーク国際音楽祭金賞 など海外でも高い評価を獲得



学校創設の翌年1981年に部員わずか1名で創部(現在の部員数は130名)。以来、学校のモットーである「文武両道」を実践しながら、コンクール出場や定期演奏会、小中学校での音楽鑑賞教室など幅広い活動を行っている。

吹奏楽コンクール全国大会では8回出場して金賞を5回、日本管楽合奏コンテスト全国大会では最優秀グランプリおよび文部大臣賞を受賞。その他、春日部市の音楽使節として友好都市パサディナ市での演奏や交流を行ったり、2011年にはカーネギーホールで開かれたニューヨーク国際音楽祭にも出演。ここでも金賞を受賞した共栄の実力は本物だ。



JazzDay Kasukabe

国内トップアーティスト「PINK BONGO」による演奏。普段なかなか聴けない本物の音が生で聴ける。

「何かやろうぜ」から始まった
ジャズデイ成功までの軌跡と現在。

2013年7月27日、春日部市中央町
第四公園で、「ジャズデイかすかべ2013
夏」が開催された。ジャズデイかすかべは、
プロやアマチュアのジャズバンドの演奏や歌
を「生で」、しかも「無料で」聴くことができ
るまちの名物イベント。

2006年11月に始まり、翌年から、春、
夏、秋と、年に3回のペースで開催され、こ
の夏で21回目を迎える。

今や、まちの顔ともなったジャズデイの、
知られざる誕生の秘密を追った。

ジャズデイかすかべ
熱い思いが
まちを変える！





Kasukabe

夏のジャズデイには欠かせない「ザ昭和歌謡団」。

男たちの思いが 一つにつながり ジャズデイが誕生

今では当たり前のように開催されているジャズデイかすかべ。7年前、1回目の開催に漕ぎつけるまでには、春日部のまちの男たちの熱い思いと苦労があった。

話は「三つの場所」でくすぶっていた男たちの思いに始まる。

一つ目は市内の楽器店。1999年頃だった。市内で建築会社を営み、トランペットを愛する成田孝満さんが、昭和楽器の北川房男さんに



毎回いろいろな演出で会場を沸かせる成田さん。

「ビッグバンドを作りたい。春日部でジャズを演奏する場所がほしい」と相談していた。

二つ目は2002年、商工会議所の会議室だ。商工会議所が中心となって運営する「春日部TMO（まちづくりを運営・管理する団体）」のメンバー、船岡克己さんと前澤初夫さんが「春日部駅周辺を中心市街地を活性化したい」と議論を交わしていた。



三つ目は2006年8月の初旬、春日部駅近くの老舗蕎麦屋巴屋の店内。ジャズが大好きで、自分の店の座敷で「お座敷ライブ」を開催していた店主の佐藤孝さんと、グラフィックデザイナーでレコード会社も持つ勝谷清一さんが熱弁をふるっていた。「座敷では限りがある。いろんなイベントをやつて春日部でジャズを広めたい」

三つの思いは人づてに伝わり、2006年8月末に一つになった。「ジャズで春日部ににぎわいをもたらそう！」

商店会役員に 一人一人会って、協力を 呼びかける日々

思いが重なってからの男たちの動きは早かった。出演者の交渉・手配は北川さんと勝谷さん。「やるからには、メインゲストは超一流のジャズ

プレイヤーを呼びたい」と出演者探しに奔走した。

地域のイベント開催には地元商店会の協力は不可欠だ。春日部駅周辺には三つの商店会がある。春日部TMOのメンバーはその各商店会の役員に会い、理解を求めた。初めは難色を示した店もあったが、徐々に理解を得ていった。



会場の設営は、春日部西口商店会連合会副会長の山崎正雄さんが買って出た。常設ステージがない頃は、そのたびに鉄パイプで組んでいた。ステージマネジメントは北川さん。「大音量では地域の住民の方に迷惑がかかる」と公園の周囲を回り、音量チェックに細心の注意を払った。

こうした彼らの熱い思いが実り、わずか3カ月後の11月、記念すべき第1回ジャズデイかすかが開催された。会場はたくさんの方の聴衆でにぎわい、イベントは大成を収めた。

ジャズデイが 市民に笑顔を、まち に活気をもたらし

7年経った今では、全国からジャズ好きのボランティアや出演者が来るようになった。お客さんも年を追うごとに増えている。

第1回から見に来ているという男性は、ジャズデイかすかべの大ファン。「住まいから歩いて行ける場所で、生のジャズ演奏が聴けるなんて最高ですね。青空の下でビールを飲みながら、まったりとジャズを聴いていると幸せな気分」と笑う。

また、地域の三つの商店会は、ジャズデイかすかべの開催を機に、自らもさまざまなイベントを開催するようになった。「ジャズで春日部ににぎわいをもたらし」という男たちの夢は着実に実を結んでいる。



春日部TMOのメンバー。前列左から尾堤 宏さん、勝谷清一さん、北川房男さん、成田孝満さん、後列左から船岡克己さん、佐藤松夫さん、前澤初夫さん、山崎正雄さん。

「ドリキン」の愛称で親しまれている「ドリーム・スイング・キングダム」。

Jazz Day



we are
kasukabe city
musicians



春日部に響く 市民楽団

「はるびよ隊 in 春日部市民文化会館」
育児をしながら
楽器も演奏したい！
そんな音楽仲間が
増えています。

2013年7月7日、

七夕の日。市民文化会館大ホールに美しい音色と赤ちゃんたちのかわいらしい声が響く。市民楽団の春日部市吹奏楽団と、春日部市を中心に活動しているママさんバンド「はるびよ隊」のジョイントコンサートだ。

はるびよ隊の隊員は「育児をしながらでも楽器を演奏したい」ママさんたち。

発起人で代表の奥村由香里さんは語る。

「ずっと一般吹奏楽団で楽器をやっていましたが、子どもが生まれると、夜の練習に出られなくて。でも、楽器は吹きたい。なんとかしたいと思い、同じ時期に出産した音楽仲間と立ち上げました。練習時間を昼間に



と顔をほころばせる。音楽の輪は今後さらに広がりそうだ。

して、赤ちゃんをおぶって練習できるようにしました」
基本的な活動は月4回の練習と年に1度の定期演奏会。依頼があると地域のイベントでも演奏している。特に芸術の秋はひっぱりだこ。幼稚園や児童館などで月に4件のミニコンサートを行うことも。結成から8年、20名程度でスタートしたはるびよ隊員は今や55名になったという。

「音楽のよさは仲間を増やし、絆を深めてくれること。たとえ、出産で数年間楽団をお休みしていても、戻ってきて一緒に楽器を演奏すれば、その時間はあっという間に取り戻せる。音楽にはそんな力があるんです」

奥村さんの今の夢は二つ。文化会館大ホールを満員にすること、そして、隊員の子どもたちと一緒にステージに立つこと。「親子共演の夢は来年叶うかな」と顔をほころばせる。

仲間は今も募集中。「ママと一緒に来て最初は泣いてしまう子も、すぐに慣れるから大丈夫。ぜひ、一緒に連れてきてあげてください」とのこと。働くママたちが参加しやすいように、練習日は月4回（平日2回と休日2回）。

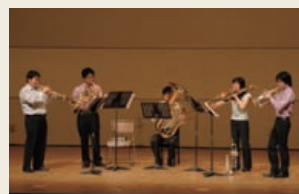


第4回かすかべ音楽祭、開催します！

秋の春日部は、まち全体が音楽に包まれます。今年もメイン会場でのコンサートのほか、春日部市内の各スポットで「まちかどコンサート」が開かれます。



第3回かすかべ音楽祭から、佐藤久成氏と赤松林太郎氏の迫力ある二重奏。



第3回かすかべ音楽祭から、レガシープラスクインテット。

第4回を迎える「かすかべ音楽祭」。春日部にゆかりのある音楽家や音楽団体の素晴らしい演奏が楽しめる、音楽の祭典です。

11月24日に開かれる「羽ばたけ未来の音楽家たち」では、大沼中学校ウインドオーケストラ部、春日部中学校合唱部、豊野中学校吹奏楽部、埼玉県立松伏高校吹奏楽部、春日部シティオーケストラの皆さんが出演します。全国レベルの演奏を、一度に楽しめる貴重な機会です。ご来場をお待ちしています。

また期間中、春日部のまちなかでは、「まちかどコンサート」も同時開催！ 今年約20会場で、ジャズ、ポップス、クラシック、ロックなど、さまざまな音楽が気軽に楽しめます。ぜひ、お気に入りの音楽を探してみてください。

春日部から世界の
カリスマ・バイオリニストへ
佐藤久成さん（バイオリニスト）

春日部市立豊春中学校出身。東京芸術大学附属音楽高校、東京芸術大学、ベルリン芸術大学等で学び、数々の国際コンクールで優勝、入賞。1994年、ヨーロッパデビュー後、世界各地でリサイタル、協奏曲、室内楽、メディア等で幅広く活躍。

2012年モーストリ・クラシック誌「最新格付け！世界の名ヴァイオリニスト」総合ランキングと現役ランキングの両方に選出。2012年「ニベルングの指輪」オード・エロティックの新譜ソロCDをリリース。各メディアや書籍への執筆活動も精力的に行っている。

各方面で活躍する一方、音楽で春日部を盛り上げたいとの思いから、第1回、第3回かすかべ音楽祭に出演。彼の繊細かつ大胆な演奏は、市民を感動の渦に巻き込んだ。



まちかど
コンサートも
あるよ！

春日部駅前ほか
市内各スポットで
同時開催！

日程

平成25年

11/10 sun. • 11/24 sun.

メイン
会場

春日部市民文化会館大ホール

出演者

11月10日(日) 14:30開演 ※要整理券(入場無料)
矢島彰(バイオリン)、宮城弦(バイオリン)、埼玉打楽器合奏団ザ・サークル'90(石内聡明団長)
11月24日(日) 13:45開演 ※整理券不要。直接会場へお越しください(入場無料)
大沼中学校ウインドオーケストラ部、春日部中学校合唱部、豊野中学校吹奏楽部、
埼玉県立松伏高校吹奏楽部、春日部シティオーケストラ



<こちら、シティセールス広報課です!>

INFORMATION

クレヨンしんちゃん絵はがきセット、
春日部市内で好評発売中!

春日部の風景としんちゃん一家がやさしいタッチで描かれた絵はがきセット。春日部でしか手に入りません。5種類×各2枚の計10枚、特製ミニクリアファイルとしおりに使える領収書付きで200円。郵送でもお申し込み可能。詳しくは市公式HPへ。

「クレヨンしんちゃん」©日井雅人/双葉社・シンエイテレビ朝日・ADK

春日部市が自信をもっておすすめします!
「かすかべフードセレクション」

「かすかべフードセレクション」とは、市が認定した、春日部ならではの優れた食品です。和菓子、洋菓子、お惣菜からお酒まで20点にのぼる商品は、さまざまなこだわりのもとに生み出され、どれもおいしいものばかり。ご自宅用にも、お土産用としても、幅広くご利用ください。詳しくは「かすかべフードセレクション」で検索!

PRESENT

感想をお寄せいただいた方、抽選で10名様に
「かすかべフードセレクション
オリジナルランチトートバッグ」をプレゼント!
webでも受付中! 詳しくは「かすかべプラス」で検索!

応募方法

- 応募受付期間
平成25年10月1日(火)～平成26年1月31日(金) 必着
- 応募方法
 - ①官製はがきに以下の項目をご記入の上、ご郵送ください。
 - ☐ お名前・性別・年齢・ご住所・電話番号 ☐ 本誌の入手先
 - ☐ よかった記事(ページ番号) ☐ ご意見・ご感想
 - ②市公式ホームページ内専用ページから応募ください。→「かすかべプラス」で検索!



※賞品の当選は、発送をもって発表に代えさせていただきます。
※応募の際にご提供いただく個人情報(氏名・住所等)は当企画以外の目的には使用しません。

川村明 重枝紗智子 山崎嘉那子
(春日部市シティセールス広報課)

「春日部の魅力を掘り起こす情報誌」として、この冊子の企画は始まりました。春日部の魅力について、もっと知っていただき、このまちをもっと好きになつてもらいたい!という思いを込めて、タイトルは「kasukabe+」と名付けることにしました。

創刊号のテーマ「春日部の音楽」の取材や撮影で学校に伺ったとき、何よりいちばん驚いたのは、現場のピンと張り詰めた空気に。そこには、先生や部員の皆さんから保護者、OB・OGの方々まで、みんな汗だくで一体となつて大会へ臨む姿がありました。「本当にみんなが獲得賞なんですよ」という先生の力強い一言は、とても印象的でした。また、市民の方々の取り組みも目を見張るものばかり。音楽が大好きなお母さんたちが、子育ても楽しみながら楽器を演奏する姿、「春日部をジャズのまちにするんだ!」と、からすべてを始めた男たちの、格好良いひたむきな思い……。どの現場に行つても、感動せずにはいられません。

春日部の魅力的な姿は、市民の皆さんが綴つていくものなんだと改めて実感しています。

春日部がもっと好きになる、まちの情報誌
kasukabe+ 2013-14 FALL/WINTER

発行日 平成25年10月1日
発行 春日部市シティセールス広報課
〒344-8577 埼玉県春日部市中央六丁目2番地
tel 048-736-1111

制作協力・印刷・製本 共同印刷株式会社

*本誌の無断転載・複製を禁じます。

EVENT

ジャズデイかすかべ2013秋

11月2日(土)

ジャズでまちなかに賑わいを!



屋台村も出現。春日部のうまいものを食べながら、気軽にジャズを楽しもう。

場所: 中央町第4公園ほか
問合せ: 春日部TMOジャズデイ
かすかべ実行委員会事務局
(春日部商工会議所)
☎ 048-763-1122

彩龍の川まつり・首都圏外郭放水路特別見学会

11月16日(土)、17日(日)

世界最大級の地下放水路を見学!



地下神殿のような調圧水槽が予約なしで見学できる年に一度のチャンス。庄和排水機場(龍Q館)へ行こう。

駐車場はないので電車でどうぞ。南桜井駅からは臨時シャトルバス運行あり。
問合せ: 庄和総合支所 総務課
☎ 048-746-1111

第16回かすかべ押絵羽子板と特産品まつり

12月21日(土)～23日(祝)

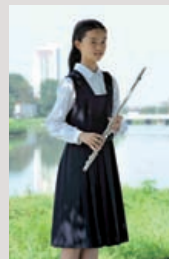
春日部の冬の風物詩



高さ3mのジャンボ羽子板や桐箱、桐製品、麦わら製品など春日部の特産品が勢揃い。職人技の実演もあります。

場所: 春日部駅東口駅前
問合せ: 春日部商工会議所
☎ 048-763-1122

「編集後記」



表紙の人…市内の中学生にご協力いただきました。